

高性能機械の導入・福利厚生面の充実が、林業従事者を育てる——(有)泉林業

●雇用条件の充実
が労働意欲を引き出す

人吉市にある(有)泉林業(泉忠義社長)。従業員(十四名)は、年間取扱量一萬立方メートル、九州でもトップクラスの素材生産会社です。作業の機械化や福利厚生面の充美によって、労働強度の軽減、林業従事者の育成を進め、3Kと言われる林業界に新風を吹き込み、全国から注目を浴びています。



ボタンひとつで伐倒から玉切りまで行うプロセッサー

●機械導入で、より安全に効率的に作業できるか考えた結果です」と泉社長。平成二年、西日本で初めてプロセッサーを導入。プロセッサーとは、伐倒した木をつかんで持ち上げ、枝払いと玉切りをボタンひとつで操作ができます。

●十代の若者も頑張っています!「林業はきつい、汚い、危険とばかり思っていましたが、全然そんなことはないですね。早く仕事を覚えて一人前になりたい」と社員の石塚俊司さん(一九)。東政徳さん(一九)と石塚さんはサラリーマン家庭に育ち、林業とは無縁でしたが、球磨農業高校林業科在学中、同社で体験学習したのがきっかけで入社しました。昨年は、林業研究指導所が行うグリーンワーカー研修に参加し、林業技能作業士の資格を取得。二人の活躍が大いに期待されます。

る高性能な林業機械のこと。「キャビン内は冷暖房も効いていますし、操作もボタンひとつ。林業も最先端をいつてますね」とプロセッサーオペレーターの松江厚さん(二十九)。現在、同社はプロセッサー三台、ハーベスター一台、グラップル二台、集材機十五台、タワーヤード一台を所有しています。また、高性能機械の導入は、若者の林業離れにも歯止めをかけました。



先輩に機械の操作を教えてもらう東政徳さん(左)

回のボーナスを支給するなど社員の労働意欲を引き出すことにも力を入れています。

の福利厚生面の充実にも努めています。「日曜定休で、プライベートも充実しています」と東さん。そのほか、年三

回のボーナスを支給するなど社員の労

働意欲を引き出すことにも力を入れて

います。

います。